

第5回

枝野さんに学ぶ「分かりやすく伝える技術」



©新潮社

広告プランナー・作家
はやし やす ひこ
林 寧彦

大手広告会社で数百回のプレゼンを経験後独立。現在はフリーの広告プランナー、作家。陶芸家（日本工芸会正会員）としても活躍中。著書に「歴史を動かしたプレゼン」新潮新書など。
(<http://www.hayashi yasuhiko.com/>)

大震災により多くの方の命が失われたことに哀悼の意を捧げるとともに、被災された皆さまとご家族の方々にお見舞いを申し上げます。

私は千葉県北西部に位置する仕事場にいました。震度6弱の揺れは初めての体験でした。陶芸家でもあり、工房に展示していた作品のうち2個の大壺が割れましたが、軽微な被害ですみました。物はまた作ればいいのです。これを書いている現在、2週間が経過しましたが、掲載される頃には、原発も薄氷を踏むような状況を脱し、落ち着きを取り戻していることを祈ります。

さて、震災以来、枝野官房長官が記者会見に出ずっぱりです。ツイッターでは「エダる【枝野・る】」という言葉が流行っています。意味は、①眠らないこと ②眠れないこと ③頑張りすぎていること。さらに4番目はつい笑ってしまいました。④上司に恵まれないこと、だそうです。「枝野、寝ろ」というねぎらいも飛び交いました。私の周りでも「話が分かりやすい」という声が挙がっています。枝野さんの話のどんなところが、分かりやすさや好印象につながっているのか。それを考えてみましょう。

自分の言葉で話している

役人やスタッフがまとめたと思われる原稿を手にしても、枝野さん本人の言葉だと感じます。なぜでしょうか。自分が聴き手の立場だったら分かりにくいところはないか。それを常にチェックしながら話しているからにほかなりません。

さらに、事前に入念な準備がなされているのが分かります。関係者から説明を受けながら、腑に落ちない点について質疑応答がなされています。ですから、記者から質問が出て、誰かに相談するまでもなく自分で答えられます。

とかく私たちは知ったかぶりをしたくなるもので、「それってどういうこと?」と尋ねるのは勇気がいります。バカだと思われたくないからです。

これは私たちの仕事にも当てはまります。たとえばコンプライアンス（法令順守）について本社で研修を受けたあと、工場に持ち帰ってみんなに説明するというケース。「ではこんな場合は、どうすれば良いのですか?」と質問されて、初めて自分が理解できていなかったことに気がつく。その一方で「本社は現場のこと何も分かってない

竹原尚志さん「人に
掌を差し伸べ、「どうぞ」とやま。
他人を指差すものはありませんと
言われて云うたは本人には
なじみやすい。」



ですよね」と言われて、わが意を得たりと急に雄弁になったのでは困ります。同僚や部下が質問してくることを想定して、研修の講師に質問しなくてはいけません。

2カ月前の枝野さんの就任会見の言葉。「(前任の) 仙石さんは優れた学識をお持ちのところがあり、伝わりにくいところがあったが、私はそれほど学がないので、分かりやすくお伝えしたい」。当時「軽い」とも批評されましたが、「知ったかぶりをしないで質問できるから、分かりやすくお伝えできる」という自信にあふれた宣言だったのです。

「話しをしたが」にまで気持ちを高めたい(あいつ)

誰でもそうですが、話さなくてはいいけな

い場にイヤイヤ出されたら、逃げたくありません。震災が起きたとき、枝野さんは「大変な役が回ってきた。官房長官の発言だけではパニックも起こる。だからこそ、私が話しをしたい」と腹をくくったのではないのでしょうか。「話しをさせられる」と思えば緊張します。「どうしてもこれだけは話したい」と思っている人の話には、説得力が生まれます。

響きのよい声

広告会社の人の話です。ある国際競技の開催地を決めるプレゼンの準備をしているとき、プレゼンのコンサルタント(英国人)を雇いました。コンサルタントからは「プレゼンで大事なのは内容よりも声(ヴォイス・トーン)だ」とアドバイスされたそうです。「いちばん説得力のある声を、それぞれの人が見つけなさい」と。一般的には、少し低めのよく響く声です。睡眠不足のはずなのに、枝野さんの声にはしだいにツヤが出てきました。中学高校時代に合唱部に所属していたそうで、中学では全国コンクールで優勝。しかも趣味はカラオケとのこと。よく響く声を作るために、カラオケという手もありますね。

改善が望まれる点

さて、ないものねだりを承知で、最後に改善してほしい点を挙げます。それは、話の末尾が「…と思います」で終わることが多かったこと。語感が柔らかく、一見誠実な印象を与えがちです。会社の会議などでも無意識のうちに多用されていますが、「思います」は主観ですから、「個人的には」というニュアンスが入り込みます。「発言したことに対して責任は負いませんが枝野さん、どうか話は「…です」で終わっていたらいいと思います。」

- 「枝野さんに学ぶ『分かりやすく伝える技術』」ポイントをまとめると次の4つになります。
- ① 自分が聴き手だったら分かりやすいか、常にチェックしながら話す。
 - ② 事前の情報収集では、知ったかぶりをしないで納得できるまで質問する。
 - ③ 「話しをさせられる」はダメ。「話しをしたい」で場に臨む。
 - ④ 「…と思います」ではなく、「…です」で終わる。